

日本ソーシャルワーク学会第 32 回大会

「変革」：ミクロからマクロへの戦略一つながりと分かち合いの未来へ

(2015 年 7 月 18 日-19 日 @日本社会事業大学)

演題募集要項

日本ソーシャルワーク学会第 32 回大会では、ソーシャルワークに関する発表演題を募集します。本大会は日本ソーシャルワーク学会（主催）と、日本ソーシャルワーカー協会、日本社会福祉士会、日本精神保健福祉士協会、日本医療社会福祉協会の共催によって行われます。

そこで職能 4 団体の実践家の皆さまにも多くご発表頂けるよう、従来の**自由研究発表**に加え、特定のテーマについて議論を深める**課題セッション**を新たに設定しました。多くの皆さまの応募をお待ちしております。

I. 募集内容

1. 自由研究発表（発表 15 分）

- ・ソーシャルワークの理論、実践等に関する内容の演題を募集します。

2. 課題セッション（報告 15 分）

- ・大会企画委員会で設定した**課題**に関連する演題を発表頂きます（実践報告も可）。
- ・課題とその概要は次頁をご覧ください。概要で記載した内容は視点の一つであり、各自の演題テーマは自由に設定頂けます。ご発表内容には大会テーマでもある**ミクロからマクロへの視点**をとり入れてください。
- ・各課題セッションにコーディネーターを配置し、演題発表を踏まえて最後に大会テーマに関する全体議論を行います。課題に関連する実践・研究を行っている方は、ぜひご発表ください。

II. 応募締め切り **2015 年 5 月 8 日（金）24 時までに延長させていただいております。**

III. 応募資格

- ・応募時点で演者全員が日本ソーシャルワーク学会、日本ソーシャルワーカー協会、日本社会福祉士会（および都道府県社会福祉士会の正会員）、日本精神保健福祉士協会、日本医療社会福祉協会のいずれかの会員であり、年会費を納入していること。

※日本医療社会福祉協会に関連する次の都道府県協会からも共催の承認を得ており、応募資格がございます；北海道、青森県、岩手県、千葉県、神奈川県、群馬県、石川県、岐阜県、京都、大阪、和歌山、広島県、愛媛県、大分県（2015 年 4 月 13 日現在）。

IV. 応募方法

- ・大会ホームページの「演題申込」から必要事項を記入して応募してください。
- ・演題申込時には抄録（A4 用紙 2 枚分）を合わせて提出頂きます。抄録の様式をホームページよりダウンロードして作成してください。
- ・応募頂いた演題は、大会実行委員会で査読し採否を決定します（結果は 5 月中旬に通知予定）。
- ・課題セッションで応募頂いた場合でも、応募数や査読の結果によって自由研究報告でのご発表をお願いする場合があります。予めご了承ください。

※大会への参加申込みが別途必要です。

大会ホームページ URL ⇒ <http://www.jsssw2015.info>

【課題セッションの各課題と概要】

課題セッションで応募される方は下記の 5 つの課題からいずれかを選択し、実践・研究の発表を頂きます。

1) 貧困に立ち向かう

社会福祉学は実践科学であり、その対象は人、家族、地域社会、地方行政、法制度、国家というミクロからマクロの連続性である。社会福祉学はその連続性の中での人の社会的行為である。ソーシャルワーク研究という枠組みが曖昧な研究群は存在し、ソーシャルワーク学を成立させようとする者の存在は稀薄である。この文脈において、ソーシャルワーカーが生活者の現実に寄り添い、生活者とともにマクロ課題である制度改善・政策提案に取り組む方途を探る場としたい。

2) 社会的養護の展開

目下、社会的養護は、家庭養護を優先するとともに、施設養護もできる限り家庭的な養育環境をととのえる形態に変えていく必要があるとし、里親制度の推進、および施設の小規模化を推進すべく施策が動いている。子どもの最善の利益、子どものウェルビーイングを実現すべく、社会的養護を担う現場では、どのような実践を展開していくのか。ミクロ・メゾレベルの実践から、施策へ反映させていくマクロレベルまでの方策を論議・共有する場としたい。

3) 脱施設化に向けた変革

1960 年代以降の欧米で急速に進行した脱施設化政策は、居住福祉の拡充とともに当事者の居宅生活を可能にし、コミュニティでの支援に移行していった。しかし、日本では未だに多くの当事者らが施設や病院に長期収容されており、高齢化とともに死亡例も急増してきていることから再施設化の動きもある。地域移行・地域定着支援のミクロな現場のかかわりから、メゾレベルの変革課題、国策として追求すべきマクロな具体的・包括的脱施設化戦略を展望する機会としたい。

4) 地域包括ケアシステムの推進

厚生労働省は、2025 年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している。今や MSW は病院のみではなく、地域全体を視野にソーシャルワーク実践を展開しなければならない。MSW からの貢献をミクロ、メゾ、マクロで議論する機会としたい。

5) プログラム評価によるソーシャルワーク実践の質向上

個別性の高い生活ニーズへの個別支援（ミクロ）と、それらニーズの共通項に基づき支援環境開発（制度・施策化：マクロ）を行うソーシャルワーク実践において、個別ニーズに適合する効果的な課題解決の実践プログラムをいかに構築するかは重要な課題である。この課題に講演すべく、プログラムのニーズへの適合性、プログラム設計や介入過程の妥当性、その効果と効率の検証を体系的に扱うプログラム評価について議論する機会としたい。

＜演題応募に関するお問合せ先＞

日本ソーシャルワーク学会第 32 回大会実行委員会・企画担当（金子・にえかわ賛川）
Email : endai@jsssw2015.info Fax: 03-6745-9554